

I

■出題のねらい

サイバー攻撃に関する新聞の記事です。少し難しい英文でしたが、グラフを活用して、適切に理解できるかを問いました。

■採点講評

慣用表現に関する問題□1□, □4□の正答率が低かったです。□1□で, “in response to” の組み合わせを知らなかったとしても “respond to” の用法から推測できたでしょう。□4□は, “around-the-clock” を知らなかったとしても, 4つのうち3つの選択肢が同じ意味であることから導き出す, または, 時計 “clock” の周りを回るというイメージから推測することができたでしょう。比較的正確率が高かったのは, グラフから読み取ることができる□5□でした。しかし, このような問題の正確率は, もっと高くなることを予想していました。グラフや表, イラストなどを読み取って活用する練習をしておきましょう。□8□は40%台の正確率でした。

II

■出題のねらい

オーストラリアで絶滅が危惧されている動物に関する英文です。最後まで読まないで正答できない問題を出題しました。また, 並べ替えの問題で, かなり高度な英語力を問いました。

■採点講評

□9□は, 辛抱強く解答を探して正答した人が40%以上いました。その一方で, 並べ替えは, 関係代名詞を含む□11□, □13□が特に難しかったようです。並べ替えの直前の語だけでなく, 直後の語にも注意しましょう。このことが, 正答を導くために必要です。

該当部分の正しい語の並び方は, 次のようになります。

- 1) ④blamed ①on ⑤humans ③who ②have over-hunted
- 2) ⑤scientists ③set out to ②pinpoint ①the scope ④of the extinction
- 3) ③which ⑤sailors ①brought to ④Australia ②on

III

■出題のねらい

ラジオ番組のホスト，電話をかけてくる人，それに答えるゲストの発言を理解する問題です。会話特有の短い文の意味を早く把握し，正答につなげる能力を問いました。

■採点講評

“million”を正しく数値化する[14]は予想通り正答率が高かったです。その他の問題も比較的正答率は高かったです。しかし，“unless”を問うた[16]は難しかったようです。この“unless”だけでなく，“although”，“nevertheless”なども正しく使えるように練習しておくといよいでしょう。[18]，[19]，[20]は難しかったにもかかわらず正答率は低くありませんでした。

IV

■出題のねらい

子供の声を騒音扱いし，条例による規制の対象にするか否かに関する新聞記事を理解する問題です。問題は，すべて文中の空白に入る語や表現を選ぶものでした。グラフを読み取る能力，相対する2つの主張を正しく理解するなど基本能力を試しました。

■採点講評

単純にグラフの数値を読み取る問題[21]，[22]の正答率は，期待に反してそれほど高くありませんでした。文章と文章の関係性を正しく把握する能力を問うたその他の問題は，まずまずのできでした。“hardly”，“do little with”など，否定語(not, never)が使われていないにもかかわらず否定の意味をもつ単語や表現に慣れていれば，正答できたでしょう。

V

■出題のねらい

Taroと旅行者の会話という設定で、場面に合った会話表現を選ぶ能力を問いました。

■採点講評

“Would you mind～?” への応答としての[26] “Not at all”, 「その一方で」を意味する[29] “whereas”, 「最初の左（または右）を曲がる」を意味する[31] “take the first left/right” などの慣用表現は、しっかり身に付けておいてほしいです。この中では、[26]の正答率が最も低かったです。[27], [30]は選択肢によく似た文章が並んでいたにもかかわらず、よくできていました。